

珍獣総進撃

和泉 修



前回までの「京都町並み改造論」で、たくさんの人から「どこが改造や、京都をなめてんのか」と、あたたかいお言葉をいただき、自分を書く文法的なコラムは、まだ皆には理解できないと気づき、誰でも楽しめるように、今回から吉本の珍獣奇獣たちまつわる吉本ネタをお送りして行きます。まず一回目ですが、皆さんは、テレビトだけが変わっていると思いでしょ、タレントを越すような珍獣奇獣社員がたくさんいるのです。今回はそのなかでも最近まで主修のマナージャーをしていた、上村正が作り出した逸話を紹介したいと思えます。上村との初めての仕事は京都殺人案内」と言う藤田まことさんと、萬田久子さんのドラマで、京都映画撮影所での衣装合わせの時でした。梅田で待ち合わせしたとき、いつもは汚いGパンに、ラグジャにけついなジャケットのはずが、その日は、萬田さんに会えると思つた

のだらう。上から下まで、アルマニで決めていた。僕が近づいて「上村、どうしたんや？」聞くと、「今日、萬田さんに会うのに、わたし汚いからこしてやら、修さんがばかにされるじゃないですか！」言い切った彼の鼻からは、長い鼻毛が二本、小鼻を巻き込むようにクルンと、男爵の髭のように対称に出ていたのだ。それから京都へ行き、衣装合わせも終わり、助監督が「修さん、スケジュールは上村さんに書いておきましたので明日からよろしく」と言われ、帰り道「上村、明日はどのシーン？」「あしたはシーン12と24です。」「何時入り？」「8時入りですが、藤田さんも一緒なので、時30分には、入ってください。」結構そう言うところがつくやと、思いながら、「どこに7時30分入り」と聞くと、「さあ、どこでしょう」と言いながら缶コーヒを買っていた。それから三日後、萬田さんとのシーンがあつて、撮りの間、マナージャーも一緒に雑談していた。萬田さんが撮りのために抜けると、緊張していた上村が、大きなため息をついて、ポケットからたばこライターを取り出し、彼ら彼女なりに何か満足したんだらう。かっこをつけてたばこを吸うつもりが、たばこをくわえるのを忘れて、ライターだけつけて鼻毛を焼いてしまった。僕は今までたばこを逆にくわえて、

火をつけた奴は見たことあるが、くわえるのを忘れて、火をつけたのは、初めて見たので変に感動してしまつた。他にも名古屋の仕事を、新大阪で待ち合わせしていたとき、15分待つても来ないので便所へいったら、便所の鏡で血まみれになつて、ひげを剃っていたり、一緒に飯を食べたら、なに食べても、そばを食べるみたいにならないう。足は、オドイターのCMみたいに犬がこけるほど臭い、ここには書き切れないほどの逸話がある。3月付けで制作に来て、6月1日付けで営業に飛ばされ、みんなには、なにに制作に来たのかと突っ込まれ、でも本人は、「そうすわ、漫才のつかみにもなりまへんわ」と言つて、全然めげない。しかし、彼が僕にたくさんネタを提供してくれたことは、事実だ。上村君、ありがとう。キミは営業でもたくさん逸話を作ってくれるだろう。

ワロワイル(本名・釘田修吉、1962年生まれ、同志社大学文学部卒。吉本興業所属、1985年5月、漫才コンビ主修としてデビュー。今宮新人漫才コンクール受賞、上方お笑い大賞、賞状賞、花王新人賞、新人賞、賞状賞、賞状賞、学生時代にはボクシングで活躍し、高校フェザー級チャンピオン(昭和55年に輝く。また、カバディ第一回社会人大会優勝、トッチボールは関西一と豪語する。通称吉本のスパロボ)。現在は、ラジオ、TVのパーソナリティ、レポーター、司会者、ソロでも活躍中。喋って、踊って、ギャグれる、ワロワイルである。

歌舞伎の楽しみ方② 南座「ドラゴンクエスト」

鳴海千裕

こぶさたです。久しぶりのコラムが、とても新鮮に感じたりして、なんかイイ気分。お休みをいただいている間もつかさず歌舞伎へは、足を運んでおりました。ここ数年、通常の歌舞伎興行以外に、こんびら歌舞伎、浅草歌舞伎、バルコ歌舞伎、そして今年、15年ぶりに復活した三越歌舞伎と呼ばれるものまで、本当に増えた。関係者も忙しいが、ファンも忙しい。情報収集、舞台の選択とファンの日も一層厳しくなることだろう。さて8月のおすめは、最新の舞台を生かすべく、新装された南座8月公演として企画された、ミュージカル「ドラゴンクエスト」。一千万本以上の売り上げを記録する、あのファミコンソフト「ドラクエ」である。そして、ジャーニス事務所の人気アイドルグループ「S.M.A.P」が主演とすれば、夏休み子供まつりという感じで、無視してしまいたいそうだけだ。しかし、ちよつと待てよ、このスタッフ陣は面白い。脚本には、劇団善人会議の主筆者でもあり、最近では市川

猿之助との仕事でも有名な若手作家、横内謙介。そして演出が、大注目株の栗山民也。このふたりの名前で、私は観るぞと思つてしまった。美術は、ヘテランの妹尾河童。ライオンは「ピーターパン」や猿之助スーパー歌舞伎でもおなじみのピーター・フォイ。そして、ファミコンファンのすぎやまこういちが音楽を担当。アドバイザーとして、中村勘九郎が参加している。このふたりが、舞台化をすすめたのだそう。勘九郎さんは「歌舞伎でドラゴンクエストをやりたい。」と言う。突拍子もないことを、でも、歌舞伎もどどん新作を出してほしいから、賛成。ストーリーは、テレビ好きの少年が、ゲームの世界に入つて、魔法使いクリス達と共に魔王ハラムスを倒すため、冒険に出発する。行く先々に闇の四天王の魔の手がのびるが、彼らは勇気、友情、愛を大切にしながら立ち向かうというもの。観客も、テレビゲームの中にある気分。脚本の構成、セリフがしっかりしているのはまちがいはないし、大人も十分に楽しめる舞台となりそう。子供にもなった気分。なんと、伝説にもなつてしまった高木ブーや中本工事も出演する。すごいキャストだ。ただ、S.M.A.Pファンの黄色

ワロワイルイベントプロデューサー。清水寺成就院のテニス・ホッパ写真展「タイムウエーターズ展」をはじめ、フアラフィナルプリントなどのコンサートなども手がける。仕事の合間をぬってほつては、精力的に歌舞伎に足を運ぶ。株ワイル勤務。



S.M.A.P主演ミュージカル「ドラゴンクエスト」
●8月1日～25日
●夜の部11時/夜の部3時半
●京都・南座
●お問合せ
075(561)1155